

ワークショップ°WS1-4

腸管気腫症に対する高気圧酸素療法 (HBO) の有効性

西森英史 澤田 健 三浦秀元 大野敬祐
柏木清輝 鬼原 史 岡田邦明 矢嶋知己
秦 史壯

札幌道都病院 外科

【緒言】

腸管気腫症は様々な疾患が原因で生ずるが、腸管壊死が疑われる場合には緊急手術が考慮される重篤な疾患である。しかし、腸管壊死が否定されれば、腸管安静や高気圧酸素療法 (HBO) を中心とした保存的治療も有効であるとされる。

【目的】

当院で経験した腸管気腫症に対し、HBOを施行した症例の有効性を検討した。

【対象】

2011年-2022年9月までに腸管気腫症の診断で高気圧酸素療法を施行した17例。男性10例、女性7例。平均年齢は81.9歳。PSの平均は2.9。全例、腸管気腫症の診断は造影CT検査で行い、腹部所見や血液検査 (HBO導入時の平均白血球数は $12,294/\mu\text{l}$)、造影CT検査から腸管壊死は否定され、保存的治療が選択された。3例が腹腔内遊離ガスを、2例が門脈ガスを合併していた。HBOとともに絶食による腸管安静、抗菌薬投与を施行した。腸管気腫症の原因疾患は腸閉塞症・イレウスが8例 (穿孔性腹膜炎によるイレウス1例を含む)、高度の便秘および薬剤性 (による腸管運動不全) が各2例、不明が5例であった。

【結果】

HBOの平均施行回数は6.2回であった。13例 (76.7%) が効果あり軽快、4例 (23.5%) は効果を認めなかった (2例は緊急手術に、他の2例は予定回数を施行できなかった)。HBOによる重篤な副作用は認めなかったが、治療後に老化や体力低下により経口摂取不良となり、代替栄養路造設と必要とした症例を2例認めた。また在院死を3例 (17.6%) (2例は原病死、1例は他病死) に認めた。

【考察】

腸管気腫症の原因疾患は重症腸管虚血や腸管壊死、消化管穿孔に加え、腸閉塞や高度便秘、薬剤性などが挙げられる。本邦において、現時点で腸管気腫症はHBOの適応疾患となり得ていないが、原因疾患で最多である腸閉塞症として10日間まで施行可能である。逆に欧米では腸閉塞症に適応がなく、腸管気腫症に適応がある。文献的にも腸管気腫症に対しHBOは安全かつ有効性が高く、腹膜刺激症状がなく造影CT検査等で重症虚血や壊死が否定されれば、HBOを中心とした保存的治療も選択肢の1つとなり得る、とする報告が多い。但し高齢者や特に認知障害を認める患者においては、腹部症状が乏しいことも多く、画像検査などから腸管虚血を見逃さないことが肝要である。またHBO無効と判断した症例には、手術など次の治療のタイミングを逸しないことが重要である。

【結語】

腸管壊死が否定された腸管気腫症に対しHBOは有用である可能性が示唆された。